

**研究所
だより**

モニター会議概要

現地モニター（敬称略・五十音順）

一般社団法人 北海道地域農業研究所

- 美唄市 井澤 勇太
(畑作・野菜経営)
- 美瑛町 内田 達也
(JAびえい青果課)
- 天塩町 宇野 剛司
(酪農経営)
- 音更町 津島 朗
(畑作経営)
- 名寄市 中野 康則
(稻作・野菜経営)

当研究所では、現地の実態を的確に把握し業務推進に活かすため、新進気鋭の農業者に現地モニターを委嘱し、さまざまな意見をうかがう場を設けています。

本年度は一月二四日に、三年ぶりの対面による会議を札幌市で開催し、意見交換を行いました。以下の概要を紹介いたします。

内田 JAびえいでは全品目、計画对比一一〇～一二〇%程度と、収量はまあまあ良かった年になりました。ですが少し天候不良があり、夏場の長雨で防除が入れなかつたせいで、収穫してみたら腐

ざいます。一年間ノンストップでの開催とさせていただきました。まだまだコロナも収束しない中ではござりますが、今回はこのように直接お越しいただいて開催することにいたしました。

今回も皆さんの経営や周りの状況をお聞きし、地域農研の活動に対しても要望等がございましたら率直なお話をお聞きできればと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

今日の座談会は、前半に皆さんの最近の状況についてお伺いし、休憩後、坂爪先生から「農産物流通の新潮流」という講演をいただきます（後掲）。

それでは内田さんからお願ひいたします。

内田 JAびえいでは全品目、計画对比一一〇～一二〇%程度と、収量はまあまあ良かった年になりました。ですが少し天候不良があり、夏場の長雨で防除が



内田達也さん

れがあつたなど、品質面では悪かつた年です。とはいへ、収量的には獲れてい

たので、生産者の実入りはまあまあ良かつたのではないかと思います。

直面している課題ですが、畑作四品について小麦が過作になつてきています。美瑛町の畑作四品は、小麦で三、四〇〇ha、豆類で九一〇ha、ビートで一、〇〇〇ha、馬鈴しょで七六〇ha作付けされていて、あいだにスイートコーンなどをいれながら畑をまわしていますが、まわしきれず、連作障害など品質にも影響がでているのが実態です。一〇一五年前はバランスよく四品で輪作が保たれていましたが、離農や高齢化などで一戸当たりの経営面積が大きくなり、人手のかからない小麦の作付けに集中してきました。

そんな中、所得率のよい大豆やコント

ラクターの活用による馬鈴しょの面積拡大を推進しています。人材も、農業ヘルパーや「day work」でスポット的に確保しています。まだまだ解決策はあるかと思いますが、畑作四品の維持につながるのではないかと考えます

坂下 ありがとうございます。それは津島さん、お願いします。

津島 「うちは畑作専業です。ニンジンはJAの委託作物で、播種時期によって発芽の本数に差が出て収入に影響するような作物ですが、農協主導型で成功している例だと思っています。

毎年のことですが、本当に天候に左右される職業だと実感しています。今年は播種時期の六月までは天候に恵まれましたが、その後の霪天・長雨で作物の育ちが停滞しました。通常そういう年は冷害が起きますが、今年は温度が上がり、十勝中央部は概ね平年並みの生育になりました。一方で、外周りの地域は温度が足

りなくてかなり悪かったと聞いています。ただ、てん菜が概ね十勝一円で病気に見舞われてかなり悪かったです。地区によつて品種の差がかなりあり、「カーベー2K314」以外の品種にすぐ病気が出ているという印象があります。防除をうまくやっているところでも品種の差が出ています。良いところは、例えば十勝の中央部では九十あつたという人もいますが、悪いところは五七くらいで、さらには褐斑病や黒根病が出て歩引きが三五%、四〇%くらいあったと聞いています。昨年度までは天候が良くて十勝中が大豊作だったのに、今年は大きく差が出てしまいました。

降雨量が多かつたところや、電が降つたところもありました。電が通過した地域は全作物葉がなくなり、小麦も地区内平均の三〇%しか獲れない、ナガイモもネギも全滅、てん菜も葉が取れて再生し直しと、ポイント的に被害が出ました。僕の所も夕立の酷いのが来て、大きな畑を作ったところに水が集まって畑の真ん

中に川ができてしまつたところがありました。そこは一回畑を分断し、明渠を作りました。大型化に向かつて整備しましたが、雨に対するリスク分散を考えないといけないのかなと思いました。

それから、うちに働きたいという若い方がおられたので雇いました。すごく仕事ができる人です。

今、畠更の平均耕作面積は三八haで、年々約一haずつ増えている状況です。三八haくらいまでは割とほうれん草やブロッコリーなども作っていますが、四〇haを超えて、例えば五〇haになつたときにそれはやめてしまします。それでいつときは小麦・てん菜・馬鈴しょ・大豆なんかの普通の畑作の輪作体系になります。さらに面積が増えて一〇〇haくらいになると、馬鈴しょの収穫の人手確保がかなり大変なので通年雇用を始める。そうすると冬の間人手が余るので、またナガイモやネギ、ブロッコリーを作り始め、貯蔵庫も作って、冬期間に選別したりするようになります。僕の周りで一〇〇ha超

えた人はみんなそういうことを始めていました。そして個選を始めると、系統外の出荷が始まる傾向があり、少し気がかりです。

畜産農家の飼料として、今年から耕畜連携でライ麦の一毛作が始まっています。秋にライ麦を播いて五月末までに収穫し、六月からまた別のもの、例えば金時とかニンジンを播きます。農協と役場から助成が出てライ麦を推進していく、うちに始めたところです。今後の畜産の動向を見ながらまた変わってくると思いますが、現在はこのよつな状況です。

坂下 ありがとうございました。津島さんのお宅も、人手が増えると大分変わつてくるのでしょうか。

津島 面積が増えてきて、機械を大分増備していたので、もしかしたら人手に余裕ができるかもしないと思っていました。誰でも作業ができるよつにトラクターにGPSなども全部付けているので、女

性陣も含めみんな作業ができます。パートさんも数名いて、機械の操縦を覚えてもらつているところです。もちろん覚えてからまでの期間も必要とは思います。が、この感じで行けば僕がある程度高齢になつても現場に携われるようになるかなと思います。

坂下 ありがとうございます。では中野さん、お願いします。

中野 神奈川の茅ヶ崎から名寄で新規就農して来年で二〇年目になります。もち米を一〇ha、野菜は五〇haのハウス六棟全部ミニトマトを作っています。もち米は六月上旬の低温で少し心配しましたが、



中野康則さん

それでも一〇俵くらいは取れたかななど思いまます。ここ一二三年ずっと

と豊作傾向が続いている。

ミートマートは北海道では産地が減少傾向で、今年の市況は高値で推移しています。七月下旬からミートマートを出荷していますが、比較的高値安定で取引されていて、一〇月は一箱三kgで四、〇〇〇円くらいでした。事情を聞いてみたところ、コロナによって一般の小売の販売量がかなり増えていて、これから先も値段は大きく下がらないのではないかという話でした。産地が減っているというのは、ミートマートを作っている人たちの年齢が高く、耕作する人が少なくなってきたという状況なのだと思います。これらの農業全体から見れば、高齢化の問題がこういうところにも現れてくるのではないかと思思います。

ミートマートは農協を通してサントリー フラワーズに売つてもうつっていますが、今年、そのサントリーフラワーズから僕の農場でYoutubेライブをやりたいというお話をいただきました。小売の現場で物を買う人たちが、自分たちの食

べているもののがどうつか知りたがつてこらへうです。コロナの影響でお客さんがそういうことに田を向けてくれているという話で、ますますそういう人たちとのコミュニケーションが大事になつてきましたと思っています。

私も稻作をやつてるので、モニ播き・田植えの時期のそれぞれ一週間、そこだけは労働力を雇用しなければならない期間になります。短期間だけ雇用するのはなかなか難しいので、東京から北海道に来る飛行機代を出し、うちのゲストハウスに無料で宿泊、作業賃は謝礼程度という形で募集すると、人が来て助かっています。農家側で「人が足りないからどうにかしてくれ」という話があると思いますが、自分たちでできることを工夫すれば、多少のお金で手伝ってくれる人もいます。

坂下 今年も、Youtubेでいろいろなことを始めるなど、新しいことをされていますね。では次に宇野さん、お願いします。

宇野 天塩では、全体的に雨の量が足りなくて、昨年同様、夏場はずつと水不足に悩まされました。(ここ数年、夏は干ばつに近い状態が基本になつてきています。草の伸びあまり良くなく、一番牧草は雪解け水があつたのでまあまあ良いものが獲れましたが、一番以降は想定より獲れませんでした。ただデントローン

三〇～三五ha積めるらしいですが、電池の持ちの都合でそこまでの量は積まないで作業するそうです。それでも大型化により相当効率が変わらしく、かなり省力化になるのではないかと思います。今どころ僕は一〇haですが、それぞれ二〇～四〇haくらいの方が合わせて六戸いって、ドローン一機でその人たちと一緒にやっています。



宇野剛司さん

は、うちでは作つていませんが、他の方の所ではかなり穫れていて、そう悪くないう状況だったようです。

販売は少しずつ動きが良くなつてきています。中野さんが先ほど「お密さんが食べ物の情報を知りたがっている」といふ話をされていましたが、「うちも」〇二〇〇年からオーガニックを出していて、お密さんのオーガニックに対する反応も良くなつてきています。全国の百貨店で物産展に参加していますが、どこに行つてもそういう傾向です。今でも「オーガニックって何?」といふお密さんも「いつしゃいますが、明らかに年々関心を持つてくれるお密さんが増えていくと感じています。

最近はコロナの関係で、イートインでその場で飲食することに抵抗を感じるお

客さんが多いので、ソフトクリームは全体的に動きが悪いのですが、若い人が集まる百貨店だとそこまで落ち込んでいない。物産展も一時期のように中止するのではなく、ほとんどの百貨店がやる方向で決めてくれるようになりました。「オーガニックが欲しい」という取引先からの声も多く上がってきていて、ECサイトでもオーガニックに注目してくれるお客様が増えています。

ただ、全体的には資材高騰と乳価低迷の中、酪農の状況は決して良くありません。乳価がたとえ一〇円上がつても全く意味がない状態です。肥料も建物関係の費用も上がっています。個体販売もだめです。雄が全然売れず、生まれるだけで赤字になつてしまつ。なおかつ乳量抑制で牛を淘汰したら補助金を出してくれるといいますが、一斉に淘汰したため廃用牛の値段が安くなり、意味のない補助金になつています。

天塩でも既に離農してしまった方もいますし、他の地域でも自ら命を絶つた酪

農家の方がいるといふ話も聞いています。なかなか先が見えない状況です。二二月が一般的にクリカンの締めで、個体販売である程度帳尻を合わせるような時期なので、来月はこのことが非常に大きな問題になつてくるのではないかと思っています。やめるという話もけつこう聞くので、一気に酪農家が減つてしまつのではないかと危惧しています。

秋から食料品も値上がりし、牛乳もその一ヶ月遅れで値上げするとニュースで言つていましたが、牛乳も一緒に上げればいいのに、なぜか牛乳の値上げは毎回否定的に報道されるので、全てが悪い方向に進んでいるように思います。研究所としても、この話についてもう少し取り上げていただければと思います。

坂下 ありがとうございます。では次に井澤さん、今回初めてご参加いただいているますが、よろしくお願ひいたします。

井澤 「あぐり」園の井澤と申します。

皆さんとは経営規模が全然違うのでお恥ずかしいですけれども、二年前から新規就農者として、祖父母の土地で経営を始めました。東京とイタリアで料理人として働き、札幌でまた少しだけ仕事をしてから農家になりました。農家になりたくて東京から戻ってきたのですが、生計としては農業を基軸として、ファームレストランもできればと思って頑張っております。

群馬県の環境科学研究所の「バランス

技術」というものの中に農業分野で使

る技術があるので、そちらを活用して、

簡単に言うと「自然栽培」のようなど

をしていきます。バランス技術を使つこと

で、農薬・肥料を使わずに地中のバクテ

リアを活性化させ、よりよいものを作つ

て持続可能な農業を拓げていくというこ

とで、美唄市で営農を始めました。最初

は全く経験がなかったので、美唄市内で研修先を探しましたがなく、いきなり経

営を始めたところになりました。初年度は四〇㌶のハウスでトマト、三〇㌶く

らいの土地で「アイコ」を露地でやりましたが、風で大半吹き飛ばされ、一時間に一二〇㌘くらいの土砂降りで、ハウスも水浸しになってしまいました。その時に収れたトマトを奈井江町の農家さんのところでジュースに加工してもらつたところ評判が良く、去年は美唄市の加工施設でジュースを自作し、試験販売をしました。味の評判も良かったので、今年は自分のところの納屋に加工室を作り、ジュースを作つています。

トマトについては、ほぼ全量をトマトジュースにするつもりで作っています。北海道では、トマトが出せる時期は皆さんがトマトを出したい時期でもあり、価格の競争があります。小面積ですが、なるべくハイブランドに近いものを高単価で売れたいのですが、JA出荷はちょっと難しいところもあり、なるべくジュースにして附加值を付け、賞味期限も延ばすという方向で販売を拡大して

いる途中です。

あとは枝豆・大豆を植えていて、面積的には一町弱くらいですが、そちらをメインにやっています。枝豆を三年間販売して分かったことは、八月中は北海道でも食べてもらえていいのですが、晩生タイプのものは九月～一〇月に収穫できるようになりました。北海道だと消費がもつ落ちていて全然売れないことです。反面、本州に出すとかなり引き合いがあるので、早生タイプは道内で消費してもらい、晚生タイプのものは道外に出す、という方向で今後固めていこうと思っています。

今年はカ梅ムシがすごく多かった印象があります。全国的にも被害が大きかったのだろうと思いますが、美唄でも米や麦に被害が出ていました。収穫物全体としては大きな影響が出たとまでは聞いていませんが、うちはスナップエンドウも少し作つていて、カ梅ムシに吸われると葉が汚くなつて売り物にならなくななりかなり大変でした。

今年から「やさいバス」が北海道で走

り始めたので、いろいろ利用しています。北海道では、コカ・コーラのトレーラーが旭川から富良野を通り、さらに美唄も通つて札幌に行きますが、その途中に設けられた「バス停」に近隣の農家が出荷するアイテムを持ちより、町まで持つて行つても「う」という制度です。本州ではかなり盛んに行われていますが、北海道では降雪すると野菜を運ばなくなるので、冬の間は「さかなバス」として運行するようです。美唄ではまだ出す農家さんは少ない状況ですが、今まで市場出荷か直販・インターネット販売かといふところに、また新しい販売形態としてこういうものが出てきたのは、良いことかなと思います。

坂下 その「やさしいバス」といふのは、最終的には札幌のどこに行くのですか？

井澤 大丸デパートが届け先になつてあります。例えば、地下一階の青果売場のバイヤーさんが買ってくれればそこに卸

せることになりますし、バスに載せないでヤマトの宅配ルートを使うと全国中に配送できるようになります。全国のバイヤーさんからも買い手がついたりします。かなりおもしろい取り組みだと思っています。

坂下 なるほど、ありがとうございます。

今、有機農業が国の政策で急に出できて、イベントも随分やっていますし、道内でもかなりシンポジウムが開かれる等、新しい動きが出ています。最近は小さいところだけでなく大規模に有機農法ができるという話もあるようです。そういう新しい動きについて、もう少し皆さんからお話をいただければと思います。坂爪先生からも流通の新しい動きについて後ほどお話をうかがいますが、それにつながるようなことも含め、お願いします。

津島 「新しい」云々とは違うかも知れませんが、大豆の面積が増えていることをやっていたほうがいいということでした



津島朗さん

最近は大型コンバインでの収穫が着実に増えています。高額なので、共同利用で地区内の数軒が組んで購入して作業していますが、昔更だけでも一六～一八台くらい稼働しているようです。そのグループでは基本的には自分たちの畑の作業をやりますが、余力があれば地域のコンタラクターとして委託を受けるようになります。その動きが出てきています。

肥料や飼料等の高騰のため、畜産農家、経営指導農家だった方が二戸、経営が悪化したのでやめることにしたそうです。経営が今のところ何を悪くない農家の方も一二戸、年度末までにやめるという話です。少し高齢な方で、今まで非常に作況が良かったので年金をもうつよろ農家をやっていたほうがいいということでした

たが、今年の経費や、来年の見通しから「やめるなり今だ」と判断したという話です。「この感じで行くと、ここ数年に激変期が来るのでないか」という気がします。

坂下 有機農業の動きも確かに着目されつつありますが、これだけ資材価格が上がると、自給という形でコストを下げるといつか、上がったコストの分を何か自分達で下げるという動きも出てきているのでしょうか。

津島 肥料も飼料も燃料も機械も、全てのものが上がっているし、人手を確保するために農家同士で競争し、人件費も上がっている。「土壤分析をして肥料を減らしましょ」という話ももちろんあります。生産者は収穫量を増やすために肥料を投入してきたのですが、生産量を減らす形で調整するような話が出てきています。本来、最大の収穫を得るために肥料も農薬もかなりの量を投入しなけれ

ばなりません、決して無駄遣いしていたわけではありません。予防的な農薬利用をあまり減らしきれると、今年のてん菜のように、「ことり」とく病害が出てしまうようなことも起きる。過去には、麦の開花の時に悪い状況が続くとどんなに農薬を投入しても病害が出てしまう時があります。天候をきつちり判断できる能力があるかないかが重要で、あまりコストを追求されると生産量は間違いなく不安定になると思います。

夏に研修会で、豊富の畜産の方とお話をしたら、「うちにはほぼ自給飼料でやっているので、飼料が高くなつた影響はあまり出でていない」と言われました。草地が安くて、搾っている乳量が十勝の半分でも生活できているそうです。僕らの所で倍の量を搾るのは、その分餌を投入しているからです。餌を輸入して食わせて、それだけの乳量を搾っているから経済が成り立っている面もあるし、いろいろなものを自給にすると確実に生乳の生産量は下がる。以前であれば「買った方

が安い」「輸入した方が安い」と輸入飼料を買って食わせていたのが、これからは「そもそも買えるのか?」という話になつてくる。今、「肥料を減らしましょ」と言っていますが、万が一食料が海外から全く日本に入つてこなくなつた場合には、「いかなる経費をかけても良いから増産してくれ」と言うしかないのではないかと思っています。

最近周囲ではサツマイモをけつこう作り始めています。九州で焼酎の材料のサツマイモが足りなくて困っているという話があり、北海道でも作ってくれなどいうことになつていて。せりに落花生も作つてほしいという話もきていて。いろいろな作物を、内地から北海道の農家がお願ひされて作り始めている。こうやって「お金になるから」と北海道の農家が新しい作物を作るようになつていくと、基幹作物を作る食料基地としての北海道の役割はどうなのかと思うところもあります。その辺は地域農研としても何か提言して欲しいと思います。各団体にしても

うですが、先を見通して、今後の日本の食料自給についてどうあるべきなのか、地域の人たちにはどういふことを意識してもらいたいのか、そういう話をもっとしてもらえればと思います。

坂下

今のサシマイモとか落花生の話も、雹害が出た話なんかとも共通して、温暖化の現れでもあるかなと思います。十勝は温暖化の良い影響を一〇年くらい享受してきたところだと思いますが、温度が上がってくると天候にも変化が起きてくるので、良い部分と危ない部分というのを整理する必要があると思います。

津島

温暖化の影響といつて、十勝中央部は例年暖かい気候で、温暖な年になると逆に中央部が高温になりすぎて生産量が伸びないようなこともあります。

坂下

温度が足りない年でも中央部は良いけれど、逆に温暖な年は中央部が暑すぎないという話ですよね。多分北海道全

体でもう一つ話はあるかな。

有機農業関連は、資材価格高騰との関連がすごく大きいと思っています。今まで「買えば良い」という話で、ペレットも草も輸入していました。そうやって外部経済化がかなり進んだわけですが、それを地域の中でどうやって組み立てなおすか、本来的な農業のあり方が逆に問われてきている。そんな中でみどりの食料システム戦略が出て、今、みんなできちんと考える必要があるという気がしています。この話の中でも先進的な皆さんなので、いろいろ考えて動かされていると思いますが、その辺で何がありますでしょうか。

井澤

先ほどの津島さんの話に関連して、大豆は僕も量を増やしていきたいと思っていますが、大豆は皆さん転作奨励金の兼ね合いでJAに収めて選別してもいいスタイルでないと、自給率を大きく上げるのはなかなか難しいという印象があります。

ただ逆に小さい農家からすると、使つていらない農地、形の悪い畑や耕作放棄地でも大豆だとそれほど栽培の手間もかからず、作付面積はそれぞれの小さな農家



井澤勇太さん

が五〇〇六〇〇kgですが、それを運ぶべを小さい農家は持っていないの

さん規模だけでも増やしていく。で
すので、大豆の食料自給率という意味で
は小さい増やし方もあるのではないかと
思います。

美唄市内に北海道光生会という福祉施
設があります。そこに大豆の選別機を貸
与して、農家がそこに大豆を持って行け
ば、どんなサイズの品種でも選別できる
ような場所をつくろうということと、選
別機を買う資金のクラウドファンディング
をやっています。目標を達成して、来
年の一月末に機械が導入される予定です。
個別の経営がパートさんを雇って大豆の
選別をしてもらいうどいのは、大豆の単
価からしたら合わないです。近隣に福祉
施設があるような農家さんは、そういう
施設と連携を取っていけば人手不足の解
消や高騰する人件費を抑えつつ、福祉施
設の利用者の雇用の確保に繋がるので、
取り組む価値が高いのではないかと思
い取り組んでいます。

美唄でもサツマイモやニンニク、ショ
ウガは、かなり着手される方が多いです。

手間がかからない、値崩れしない、単価
が高い、というところがいいのかなと思
いますが、先ほど落花生の話もありまし
たが、あるビール会社が「北海道で作っ
てくれれば全量買ってビール工場でおつ
まみとして使いたい」と、うちにも話が
来たことがあります。一〇年前は、落
花生はおそらく「そんなの育てられない」
「育てようとは思わない」と考えただろ
うと思いますが、最近は家庭菜園レベル
でも育てる方が増えてきています。フラン
スの有名なワイナリーが函館に土地を
買ってワイン造りを始めていますけれど
も、そういう先見の明で気候に向き合つ
て作付けを変えていくというのは、トレ
ンドとして大いにあるのではないかとい
う印象があります。

自作できる肥料があればそれに頼つて
みるのも良いのかなと思います。私がお
世話になっている浦臼の農家さんで、道
内のライスセンターからもみがらを大量
に請け負い、養豚場の知り合いに屎尿を
無償で運んできてもらい、その人は切り
作る」というイメージがかなり浸透
しています。北海道には「観光」という

返すだけでもみがらを分解して安い肥料
を作り、再活用するということに取り組
んでいる方もいます。

うちは農薬・肥料を使わずに高単価で
作物・加工品を売りたいところなのです
が、買い替えなければならない資材がそ
んなにあるわけではないので、今年から
野菜の値段を少しずつ下げ始めました。
そうするとおそらく、どとかの段階でう
ちの野菜の方が慣行栽培より安くなる時
が来ると思います。そうすると、うちの
野菜を選んでもらえる要因になるのかな
と思っています。農薬・肥料を使わなけ
れば経費もそんなにかからないので、そ
れでうまくやれる方法を見つけたいと考
えながらやっています。

**中野 時代的にコロナ、ウクライナ、
円安と続くと、大手マスクも今「食料
安全保障」など言いだしています。東京
ではやはり皆さん、「北海道は安全なも
のを作る」というイメージがかなり浸透
しています。北海道には「観光」という**

イメージもあって、先ほど東京から手伝いに来てくれるといつ話をしましたが、その人たちは「手伝いに行つたら帰りは観光して帰れる」ということで引き受けてくれるようないイメージがあります。もう少しスマートミーダとかインターネット、例えばYouTubeなどで、北海道の農業のアピールを強めていった方が良いと思います。北海道に住んでいる人は「もつこれ以上アピールする」ではないと思つますが、僕はもつと北海道農業の魅力をアピールすることは大事だと感じます。

今タワーマンションに住んでいる人が多いのですが、そのタワーマンションが将来的には老人ホームみたいになつてしまふのではないかという話を、東京の人から聞きました。都市部の高齢者の人たちが「買い物難民」になつてしまつような現象も、将来的には起きてるのではない。そうなつたときに、キッチンカーとは違つもつと新しい形で、例えば大型トラックを使って物を売りに行くといつ、

古くて新しい形の商売がこれから成り立つていくと思います。そこでホクレンさんか大型トラックを使って北海道の食材を直接売りに行くというのもありじゃないかなと思います。

いま飲食の人たちは、テナント料を払つて固定の店舗で商売するという従来の形から、キッチンカーで移動してお客様がいるところに行って物を販売し始めるような動きが加速度的に増えています。この先是かなり淘汰されていくとは思いますが、淘汰された先には、移動販売というものが改めて注目されると思います。

北海道の野菜などをアピールする」とも含め、農業の現場にいる人間が直接そういうことに携わる、小売りのことを考える、というのは大事ではないかと思います。

いま飲食の人たちは、テナント料を払つて固定の店舗で商売するという従来の形から、キッチンカーで移動してお客様がいるところに行って物を販売し始めるような動きが加速度的に増えています。この先是かなり淘汰されていくとは思いますが、淘汰された先には、移動販売といいうものが改めて注目されると思います。

坂下 ありがとうございます。やはり、アピールが大事だとこう(こと)ですね。宇野さんもお願いします。

宇野 食料安全保障といつ(こと)で書つと、僕も近い将来食料危機が来るだろうと予想しています。大豆やコーンが入つてこなくなるような日も、今の状況だと近いかもしれません。僕の友達にも、将来的にたんぱく質が世界的に不足する事態を考えて、長野でコオロギの養殖を始めた人がいます。日本にあるものでとにかく生産しなければならない状況が来るのではないかと考えています。

道北では農業をやめる方が増えていて、今でも土地が余つていて使いきれない。うちもどんどん畑を増やしていますが、もつこれ以上畑が増えても扱いきれない。でも、やめる人が増える以上、その土地

材を使って「さる」ということをアピールしていくことも大事なのではないかと思います。

を使って何かは生産していきたいとは考

えていて、試験的に肉牛を始めています。

オーガニックではないのですが、グラス

フェッドの、本当に草だけを食べさせた肉牛です。肉牛ならある程度放牧地で放置しておけばいいだろう、と。

肉牛は一歳あたりで出すのが一般的なところを、今年七歳の雌の未経産牛がまたまたまたのを食べてみたら、赤身にサシもちゃんと入っていて、とても美味しかった。こんな肉が本当に草だけで生産できるのであればこの先の可能性は非常に大きい、という手合えがありました。土地もたくさんあることだし、草だけで放置しておいて美味しい肉に育つのであれば、経費も今よりずっと安く済むのではないかと思います。このまま穀物を食わせていくば、畜産は崩壊する可能性が高いと思います。だったら草を食わせるしかない。将来的にはそういうんだろうと思っています。今年試したホルスタインの雌でも十分美味しかったので、他の牛でもどうなるか試してみたいと思っています。

ます。

東京の方でも、グラスフェッドビーフ

の取扱いがあるお店も大分増えてきていて、意外と高い値段がついています。で

もグラスフェッドという言葉は「言った者勝ち」などいうがって、誰でも言えてしまうのです。どんな農薬を使っているが、草だけ吃ていればグラスフェッドだといつになるとになってしまつ。そのグラスフェッドの基準を今後日本で作りたいという話をしている段階で、明日をういう会議にも出る予定です。消費者の方にもグラスフェッドとはどういうものかどういうことを知つてもらいつ一つのきっかけとして、適正な基準を作り、その基準の下でお客さんにものを食べてもらいたいと考えています。

うちの牧場では今年春先にチーズ工場が完成しました。いまはコンテとかゴーダといったハード系のチーズを作るために試験をしています。今試しているのが半年から一年熟成のものばかりなので、まだ結果が出るのは大分先ですが、それ

が美味しいければチーズもどんどん展開していきたいと思っています。

坂下 今の宇野さんのお話にもあります

したが、今まで外部経済で回転を早くしないと元が取れないような経済でずっとやつてきたわけです。しかし、七歳くらいまでかけて育てた方がコストがかからないのならそれで十分ペイできるとい

う、今までとは少し違つ発想が必要になつてきていますね。食料安保だといろいろと謂われていますが、足元を見ると「過剰投入」ということも言われています。昔歐米でも「ローのA (Low Input Sustainable Agriculture : 低投入持続的農業)」といつ試みが行われたわけです



坂下所長

が、一度投入を少し下げてみて、土で取るような方向に持つていくような期間

もあつて良いのかなと思います。ですがその場合、先ほど津島さんが言われたようにアウトプットの方が下がってしまい、農家経済は持つのかどうギリギリでやっているような部分もある。その辺を中期的に生産の仕方を今一度考え直してみる期間があつても良いと思います。その過程で、直接支払のようなことも専門家となかなか転換できないのかな、というのが私の印象です。

いずれにしても、次の世代につないでいくための農業の仕組み・かたちなどいうものをいよいよ考える時期にきているのかなと思います。今回の座談会では、皆さんのお話の中でいろいろと有意義なことをお聞きできたかなと思います。前半は(じ)で締めたいと思います。

… (全口程終了後) …

道下 本日はお忙しい中、久しぶりに開催のモニター会議にご出席いただきましてありがとうございます。また坂爪先



道下専務

生におかれましては、

いただければありがたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

大学の業務がお忙しい中、いろいろな取材・調査に基づく講演をいただきましてありがとうございました。Web会議の便利さを否定するわけではありませんが、やはり節目節目では皆さんと顔を合わせた中で、自由にご発言をいただくような機会を設けるのは大事だと思いますので、次年度以降も事情が許す限りこうした会議を続けていきたいと思っております。

また、地域農業研究所においては、先ほど来モニターの皆様が仰っていたような農業を取り巻くいろいろな問題について協議をさせていただいております。そういう問題の解決に役に立てるような調査研究をこれからも継続していきたいと思っておりますので、機関誌等の内容を見ながらもさまざまな場面で叱咤激励を



会場の様子